

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	上代継在宅地域支援センター		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 12日		～ 令和7年 12月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 13日		～ 令和7年 12月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より地域の保育園、幼稚園、児童発達支援事業などへ見学しお互いの役割と情報の共有を図るなど連携を強化している。 地域の保育園に月1度程度出向き交流を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 併行施設等の見学、訪問後は報告書を作成し、全職員で情報を共有し、その後の保育に活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も併用利用している幼稚園、保育園、児童発達支援との情報共有の機会を設け相互理解に努めていきます。 地域の保育園との交流も継続し、全員が参加できるように日程を調整していきます。
2	<ul style="list-style-type: none"> 併設している診療所があるため、体調不良時に連絡を取り合うことで早期に対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 共有のPCソフトを使用することで普段から診療所との情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き情報共有を行いながら、利用児、ご家族が安心して過ごせるよう支援していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 重症心身障害児への知識や経験の深いスタッフが多いため、個別ごと特性に合わせた支援を提供することができる。 専門職の医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、コーディネーター、生活支援員(保育士等)の多職種間の連携がとれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門性の高い多職種スタッフによる個別ごとの支援を提供している。 生活支援員、看護師、当日担当の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と保育前後に話し合いの機会をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、児童やご家族と情報交換、情報共有を行いながら、多職種連携による個々の特性に合わせた支援を行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策を行いながら、地域のボランティアの方々や見学者の受け入れ等行っているが、行事に地域住民が参加する機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症流行時に変更した行事等の内容を見直ししながら進めているが、地域の方々が参加できる行事とまでにはなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症などの動向を見ながら、地域との連携を進めていける行事等の開催を検討していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> その日登園されるこどもの特性に合わせて、心地よく過ごせるよう環境設定をしているが、壁紙など設備に経年劣化が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 開設より20年以上の期間が経過している。また、壁に直接掲示したことによる損傷も見られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 開設から20年以上経ち、設備や壁紙等の経年劣化もあり、清掃及び修繕を検討していく。
3			